

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375900277		
法人名	医療法人 社団福祉会		
事業所名	グループホーム高須		
所在地	愛知県西尾市一色町赤羽北荒子18番地		
自己評価作成日	平成27年11月18日	評価結果市町村受理日	平成28年3月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&Jigvosyo_Cd=2375900277-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成27年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人の運営する施設という特徴を活かし、入居者の急な体調の変化等にも医療との迅速な連携を取ることで入居者、家族に安心して頂けるよう努めています。また、職員は常にその方ひとり一人の支援や対応について考えホームでの生活が穏やかに送れるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは、理念の見直しを行っており、理念の作成の過程では職員間での検討も行われている。理念は、職員が利用者一人ひとりと向き合うことを目指した内容になっており、利用者の尊厳にも配慮している。ホームは、様々な診療科を備えた医療機関を母体としていることもあり、利用者の身体状態に合わせた柔軟な受診支援が行われている。利用者、家族にとっては、医療面でも安心して過ごすことが出来るホームでもある。ホームは建物の1階にデイサービスが併設されており、デイサービスで行われる行事の際には、ホームからも利用者も参加しており、交流の機会につながっている。日常生活においても、ホームではホーム玄関や2階の入り口に施錠を行っておらず、職員間で利用者の見守りを行いながら、利用者本人が好きな場所で過ごすことが出来るような取り組みも行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は常に目視できる所にあり意識するよう心がけている。意見を出し合い共有している。	ホームでは、理念の見直しを行っており、職員間で検討を重ねながら新たな理念をつくらせている。理念をスタッフルームに掲示するとともに、運営推進会議の機会にも報告されており、外部の方にも伝えられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	定期受診や外出支援又併設施設の行事等に参加し地域の方との交流を持てるようにしている。	ホームに併設されたデイサービスに地域のボランティアの方が訪問した際には、ホームからも利用者と参加しており、交流につながっている。また、中学生の職場体験の受け入れも行っており、地域貢献にも取り組んでいる。	法人の関連事業所とも連携しながら、カフェ等の検討も行われている、地域の方との日常的な交流の機会をつくる取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の小中学校の福祉体験を通して認知症の方々の支援の方法を学んでもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議でその課題について報告をし参加者の方から意見を頂きサービス向上に活用している。	会議には、介護相談員を務めている民生委員の方の出席が得られており、地域に関する情報交換にもつながっている。また、会議には法人の職員の出席も行われているため、家族からの要望等にも柔軟に対応している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議の中で事業所の内容を伝え、情報を頂いている。月一度介護相談員の訪問でアドバイスなどお聞きし向上に取り組んでいる。	市内の地域ケア会議には、ホームから管理者が参加しており、情報交換等の機会につながっている。また、市で行っている「地域医療を守る会」にも協力しており、連絡会の際には出席し、必要な連携、協力等に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束については心配り出来る介護をすることで拘束しないよう務めている。研修を行い理解し取り組んでいる。玄関の鍵はしていない。	ホームは身体拘束を行わない方針のもと、2階にあるホーム入り口には施錠を行わず、職員間で連携して見守りに取り組んでいる。また、研修会の機会をつくりながら、職員が振り返る機会につながっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修を行い防止に努めている。利用者様が穏やかに過せるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	内部研修で制度を学ぶ機会を設けているが実際に支援に至る事例はなし。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結、解約等については重要事項説明書を用いて説明し不明な点など何うようにしている。消費税率による料金改定にも書面にて説明、同意を頂く。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議への参加家族から聞き取るなど運営に反映させている。また、ご家族の来訪時などには積極的に声を掛け日常会話の中からご意見、ご要望をすくい上げることができるよう心掛けている。ご意見箱の設置については毎月のお手紙にて発信を継続的に行き周知に努めている。	ホームの行事の際には家族にも案内を行っており、家族との交流につなげている。要望等については、ホーム管理者の他に法人職員も対応する体制がつけられている。また、2か月に1回のホーム便りの発行が行われている。	ホームでは、継続したテーマとして、家族からの意見等の吸収に取り組んでいるが、難しい現状がある。家族にホームの現状を知ってもらいながら、意見等を出してもらえる関係づくりに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のミーティング等で意見や提案を聞いたり個別面談からの情報を得ながら改善に努めている。	ホームの職員体制が常勤者を中心としているため、毎月の職員会議には基本全員出席としており、意見等を交わしながら、運営への反映につなげている。また、管理者による年3回の個別面談が行われており、意見等の把握と吸収につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人目標の設定から年間3回の個別面談の実施をして目標の達成度や取組状況を把握している。その際に個別の意見等もすくい上げ職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	スキルアップへの研修参加回数等の目標設定と達成に向けた協力体制を設けている。内部研修では担当持ち回り制をとり研修内容の提案、準備ができるよう働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修会や交流会の参加をし情報交換から取組みなどを参考にさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	不安を取り除けるよう時間をゆっくり取りながら要望をお聞きし安心した生活が出来るよう務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の不安をお聞きし可能な限り取り除けるよう要望等お聞きする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホームの様子を知って頂き必要な支援が提供できるよう努める。他のサービスの利用も可能な限り対応したい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	雑談の中でいたわりや励ましを頂くことがある。1人ひとりに合ったお手伝いをお願いしている。必要な人と思ってもらえるような支援をするように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ホームの行事に参加してもらい本人と家族のつながりを深めてもらい家族の要望等お聞きし共に本人を支えていけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	法人内の病院や施設に入院入所されている方の見舞い、面会にはお連れするようになっている。	馴染みの方との関係については、現状、難しくなっているが、利用者の中には入居前からの友人、知人と交流している方がおり、関係継続につながっている。また、家族との関係についても、利用者により一緒に過ごす時間をつくっている方もいる。	馴染みの方との関係継続が難しい状況が続いているが、最近入居した方については、一緒に外出する等の交流が行われている。継続した交流につながる事を期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	自分は1人ではない。自分も役にたてることがあるんだと思ってもらえるようにお手伝いや共に楽しめるレクを通して支えあえるように務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	以前退去された方に利用者と共に面談したりしてその後の状況などを把握している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	「その人らしさを生かすのはどうしたら良いか」を中心に個々の暮らしの希望をみつけるように支援している。	職員は担当制も活用しながら利用者の把握に取り組んでおり、日常的な気付き等についても、A3サイズの記録用紙に記入する取り組みが行われており、職員間の共有につなげている。カンファレンスについても毎月実施し、意向等の把握と反映に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者様やご家族様からお聞きし安心した生活が出来るよう務めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一緒に野菜切り、洗濯物干し、花の水やり又レクリエーションを行いながら心身の状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	面会の時に家族に意向を聞いたりケアカンファレンスで検討しながら問題点を話し合い作成しています。	基本、毎月3人ずつカンファレンスを行うことで、3か月毎のモニタリングと介護計画の見直しにつなげている。日常的にも、介護計画の中の記号を記録用紙に転記することで、計画内容を把握した記録の反映につなげており、カンファレンスに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアの実践はカルテ、報告書に記入しミーティングで話し合い見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その方に必要なサービスを提供したい。希望があれば家への送迎もします。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	毎月一回、介護相談の方の民謡、大正琴のボランティア、最近法人内の託児所の子供達の訪問に普段見られない笑顔が沢山みられるようになった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	併設病院の定期受診をしている。	母体の医療機関で、利用者の様々な症状に対応することが出来るため、ホームからの受診支援や急変等の際にも柔軟な対応が行われている。また、関連の訪問看護による支援も得られており、利用者の健康面の支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	定期的に訪問看護の方が来られる。急変時は連絡をとり、その都度相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内併設医療機関と連携を取り常に情報交換や相談が出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時にご家族の意向を確認し、事業所として対応出来る範囲は説明した上で重度化した場合は同法人の医療機関や施設で対応できる事もお伝えしている。	現状、重度の方も生活しているが、関連に老健をはじめとする医療施設が開設されていることで、利用者の段階に応じた生活場所の移行についても対応している。家族とは、ホームの出来ることを伝えながら、意向に合わせた支援に取り組んでいる。	今年度、ホームでは、家族に対して改めてホームで出来ることと出来ないことを伝える取り組みを行っている。家族との話し合いを深めながら、ホームへの理解が深まることにつながることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	AEDの研修は定期的に行なっている。病院との連携もあり発生時の対応も話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練も定期的に行なっている。地域との協力体制は出来ていない。	年2回の避難訓練の際には夜間を想定した訓練や通報装置の確認も行われている。法人の行事を通じて、地域の方への災害に関する情報発信等の取り組みも行われている。また、法人の災害委員会には、ホーム管理者も参加しており、連携にも取り組んでいる。	法人の関連事業所との連携を深めるためにも、併設のデイサービスとの合同の訓練の実施や母体の医療機関に保管されている備蓄品を定期的に確認する等の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシーを損ねないように声かけしているが知らずに使ってしまっている言葉など配慮に欠けていたと思うこともあり気をつけたいとおもいます。	介護理念に利用者の尊厳に配慮する内容が記載されており、職員が日常的に意識するとともに、管理者からも職員に対する利用者の対応に関するサポート等にも取り組んでいる。また、接遇に関する研修会の機会もつくられており、職員の振り返りにつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	表情や言葉からも利用者の思いを注意深くキャッチし自己決定できるよう務めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	寄り添った支援をするように務めているが職員の都合になってしまいそうな時、話し合い修正し支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	同じ服にならないよう色々な服を着て頂くようにしている。本人に聞きながら着て頂く。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	野菜の皮むきや野菜切り、お盆や箸を並べてもらったりしている。お膳の片付けも手伝ってもらっている。	メニューを職員で考えており、買い物により食材を調達している。利用者も調理や片付け等、出来ることに参加しており、食事の際には、職員も一緒に食事を行っている。また、行事に合わせた食事の提供等の取り組みも行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の時以外にも水分補給をしている。飲み物も色々買え水分が取れるようにしている。栄養のバランスも考えながらメニュー作りをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎回口腔ケアは行なっている。1人ひとりに付いて対応している。義歯は夕食後ポリアデントに浸けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	安易にオムツを使用するのではなく出来る限りしないで済むよう話し合っている。排泄時間もチェックしトイレ誘導している。	利用者の排泄状態のチェックを行いながら、職員間で情報を共有し、トイレへの声かけ等につなげている。また、訪問看護との医療面での連携にも取り組んでいる。利用者により、排泄状態が改善した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便のチェックは必ず行なっている。自然排便できるよう水分補給には気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	利用者の体調や気分なども考慮し入浴を楽しんでもらっている。	利用者は、基本1日おきの午後の時間に入浴しており、入浴を拒む方への声かけ等も行われている。また、重度の方にも対応できるように、シャワーキャリーを取り入れており、職員複数での介助も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	夜間での睡眠時間を聞いて日中の対応を考えます。夜寝れない時は温かいミルクを飲んでもらっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員間で薬の変更や副作用を確認するようにしている。症状の変化にも注意深くみなければとおもいます。副作用についても理解に務めたいとおもいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	玄関掃除、洗濯物干し、ごみ出しなど1人1人に合ったお手伝いをしてもらっています。役割を持った生活が出来るように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	満足して頂けるよう支援をしていきたい。日常的には近隣の散歩、月に一度の外出行事を楽しんで頂いている。他にも希望があればぜひかなえてあげたい。	日常的な散歩を兼ねて、ホームから離れた場所にあるゴミ捨て場まで出かけたり、病院に薬を取りに行く等の機会をつくっている。また、季節に合わせた外出行事を行ったり、外食の機会もつくっている。また、外出行事の際には、家族の参加も得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には預かって管理している。希望があれば買い物に行けるよう支援する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	要望、必要に応じて電話でのやり取りが出来るよう支援する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者様にお手伝いをしてもらいながら季節感を出した壁紙作りを毎月工夫しています。	ホームは建物の2階に開設されていることもあり、採光に優れており、ゆったりした空間と合わせて、利用者は日中を明るい雰囲気でも過ごしている。リビングや通路の壁には、季節に合わせた飾り付けが行われたり、外出行事の際の写真が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者様同士が気持ち良く過せるよう居場所作りに心がけています。ピアノを弾いたり、本を読んだりされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ほとんどの方はフローアで過され寝だけの部屋になっているが、一部の方は馴染みの物を置いたり、花を飾ったりしておられる。	居室もゆったりとしており、収納スペースも設置されてあるため、居室内を広く活用することができる。ホームで備え付けの備品もあるが、利用者により好みの物の持ち込まれたり、その方に合わせた居室内のアレンジが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自立した生活をして頂く為に見守り、環境作り、場所の貼り紙やトイレに鈴をつけたりと動きやすく安全に過せるよう工夫しています。		